

健康のしおり

皆さんの健康のお役に立つように、このようなパンフレットをつくりました。
是非ご覧ください。

港南区医師会

横浜市港南区港南中央通7-29

電話842-8806

港南区医師会休日急患診療所

診療日 日・祭・年末年始

診療時間 午前10時～午後4時まで

電話 842-8806

ところ 鎌倉街道 バス停 吉原
横浜市港南スポーツセンター前

動脈瘤と静脈瘤

どちらも血管にできた瘤のことですが、動脈か静脈かでその重症度は大きく異なります。

まず静脈瘤ですが、代表的なのは下肢の表在静脈（大伏在静脈，小伏在静脈）に起因した下肢静脈瘤です。妊娠が原因となることが多いため出産から20年ほど経過した女性や、男性でも立ち仕事が多い方（板前，床屋さんなど）に多くみられます。

見た目が悪いのですが、放置していてもまず死ぬことはありません。重症なものになると皮膚に色素沈着（血液が滲み出すため黒ずんできます）や潰瘍を起こすことがあります。

治療は外科治療（血管を抜いてしまうストリッピング術，血管を切断，結紮する高位結紮術など）が主ですが、硬化療法（血管の中に硬化剤を注入し凝固させて血管を閉塞させる治療。最近ではレーザー治療が保険適応となりました。）を行うこともあります。弾性ストッキングは圧迫しているだけなので、病状の進展予防にはなりません。なお手術の後には必ず弾性ストッキングを最低でも1ヶ月ほど履いていただくので、手術の時期は秋～冬の寒い時期がおすすめです。専門は血管外科ですが外科，心臓外科にて治療している施設もあります。

次に動脈瘤ですが、脳動脈瘤，大動脈（胸部，腹部），末梢血管（腸骨動脈，膝窩動脈，内臓動脈瘤）の3つに分けられ、担当科は脳動脈瘤が脳外科，他は心臓血管外科もしくは血管外科にて専門に治療し

ます。原因は様々ですが動脈硬化によるものが多いと考えられています。

破裂しなければ基本的にどの動脈瘤も症状がないため、偶然施行された画像検査（CT，MRI，エコーなど）にて発見されることがほとんどです。しかし、まれに症状を伴うものがありますが、それは動脈瘤が急速に拡大していることに起因する場合があります。ため早急に治療する必要があります。

破裂してしまった場合の治療は、脳動脈瘤であれば開頭クリッピング術（飛び出ている瘤の部位をクリップで挟んで塞ぐ）、大動脈，末梢血管であれば人工血管置換術などの外科手術が必要です。

未破裂（破裂していない）動脈瘤に対する治療も破裂した場合と大きくは変わりませんが、手術に対するリスクが大きく違ってきます。未破裂のものとは破裂したものでは、手術の難易度，術後の合併症の頻度が上昇するため成功率に差が出てしまいます。最近では動脈瘤の形状，大きさなどからカテーテルによるコイル塞栓術（脳動脈瘤，腸骨動脈瘤，内臓動脈瘤）、ステントグラフト（大動脈瘤）が適応となる場合があります。あまり身体に負担のかからない低侵襲手術として施行する施設が増えてきました。

静脈瘤，動脈瘤はどちらも根治するためには外科的な治療が必要となるため、専門医と相談しながら治療をすすめてください。